



すずき たかし 議員
鈴木 隆司

採択された請願・陳情一番長期化は

最も長いのは平成13年度

採択されている、 請願・陳情について

鈴木 議会定例会において、毎年多くの陳情等が採択されていますが、長期にわたる未実施の数がどんどん増えている現状です。道路整備及び、街路灯設置要請について、現時点での採択された未実施の数は何件あるのか？一番長期化は何年前か？その対策は？

町長 道路整備要望の件数は、平成27年11月現在158件あり、そのうち整備済み95件、未整備は63件ある。
未整備の期間が最も長い順は、平成13年度1件、15年度2件、16年度1件、18年度2件、19年度4件、



陳情を受けた道路の調査

20年度3件、21年度5件、22年度10件、23年度1件、24年度1件、25年度14件、26年度14件、27年度5件です。

特別な理由を除いて古い順から着手しているが、特に震災以降は要望が多く、未整備地区の件数は増えている。今後は、4カ年の実施計画に記載し事業を進める。街路灯

は、おおむね10メートルに一カ所を原則に状況に応じて設置している。現在町全体では2千127基の街路灯を維持管理し、本年度は50基分の予算を計上している。

道路側溝の 汚泥処理について

鈴木 側溝の汚泥処理については、汚染数値が、極めて高いことが予想され、東京電力から、自粛要請が出されていると聞いている。地域によって、住民の手によって、汚泥処理が実施されていますが、「任意」イコール「自己責任」。今後、自治体の役割と対応をどう考えていくのか？。

町長 道路の除染は、歩道の中心付近等、人が多くの時間を過ごす場所です。地上1メートルの空間放射線量が0.23マイクロシーベルト以上の箇所が実施対象となる。

住民により任意で実施された道路側溝の汚泥処理は、平成26年度、27年度のクリーン作戦で実施された。

線量率が0.23マイクロシーベルトに達していない側溝なので、除染事業で発生した汚染土壌等とは分けて仮置場に一時仮保管している。

道路側溝の基準値以下の土砂撤去、処分については財源確保等に向けた対応を国、県等の関係機関に要望、要請している。

校舎耐震性の 再確認について

鈴木 震災前、各小学校の耐震補強工事が実施されましたが、今般矢吹小学校の大規模改修工事中に、既存施設コンクリート劣化等が、数カ所発見された。以前の、コア抜き工法による強度検査は、何m間隔で実施されたのか？。最新技術の、X線検査や超音波検査等を用いての再検査の考えは？。

教育長

矢吹小学校西校舎は耐久壁と呼ばれる地震等で発生する揺さぶりに抵抗する構造的、耐震的に効果のあるコンクリート壁の一部を円筒形にくり抜くコア抜き法、またコンクリートに打撃を与え返ってきた衝撃により強度を推定する反発硬度法であるシュミット

ハンマー法を採用。強度検査は、500平方メートル当たり3カ所程度測定する基準に基づき、各フロアで耐震構造上重要な耐震壁を選定し、1階から3階にかけてコア抜きを7カ所、シュミット法を10カ所、合計17カ所の測定をした。耐震診断の結果、基準値を下回るものであり耐震補強設計を行い、耐震補強工事を実施した。その内容は福島県建築物耐震改修計画評価委員会から適正と評価され承認を得ている。

平成23年3月の東日本大震災では建物の倒壊や柱の崩壊等の大きな被害もなかったと認識している。柱、壁等のひび割れは建物の経年劣化によるもので、耐震性に起因するものではなく、耐震強度の再検査をすることは考えていない。

町政を問う（一般質問）